

会津地域における小麦「ゆきちから」の播種早限

福島県農業試験場会津地域研究支場

平成14～15年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

普通畑作物－小麦－作型・栽培型、栽植様式・密度、生育調整、会津平坦

分類コード 02－02－18151667

2 担当者

渡部 隆・渡邊洋一・齋藤正明・齋藤弘文

3 要旨

会津地域における小麦「ゆきちから」の安定生産に向け、早播きによる播種適期拡大の可能性を検討した。

- (1) 播種時期が早いほど、生育期間中の生育量は多く推移し、稈長が長く、穂数が多くなった。9月15日播種では、成熟期近くになってわずかになびく程度の倒伏が見られた。播種時期が早いほど、成熟期は早まり、収量は高くなった。
- (2) 播種量を変えても、出穂期及び成熟期は変化なかった。播種量を増やすことにより穂数は増加し、収量は増加した。
- (3) 播種量の違いによって、麦踏みにより株が開くなど、草姿に変化が見られた。越冬前の生育は、播種量0.4kg/aで麦踏みした場合に生育量が増加し、播種量0.8kg/aでは生育量が並み～やや少なくなった。麦踏みを行うことにより、倒伏がやや軽減され、播種量0.4kg/aでは、穂数が増加して増収した。
- (4) 以上のことから、播種時期を9月中旬に早めることにより、初期生育が確保され、収量の向上が認められた。ただし、倒伏や雪腐病の発生が見られたことから、越冬前の生育が過剰にならないように生育量を調節する技術(麦踏みの実施、播種量、基肥量の検討など)の導入が必要である。また、適応品種については、耐倒伏性に優れた「ゆきちから」が適しており、耐倒伏性の弱い「アオバコムギ」は不適である。

4 その他の資料等

なし